

1 ごみの状況

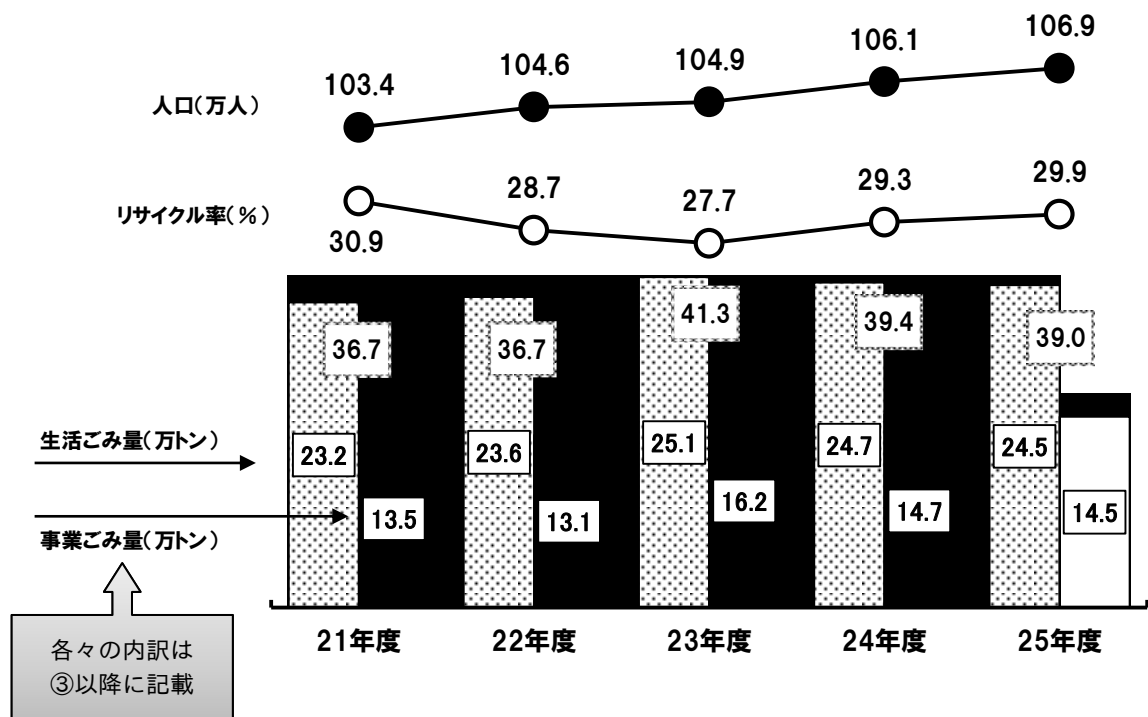
① 過去5年間のごみ総量等

<単位：トン，(g/人・日)>	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
人口(10月推計人口，万人)	103.4	104.6	104.9	106.1	106.9
ごみ総量…A	366,785 (972)	367,436 (962)	412,717 (1,074)	393,848 (1,017)	390,383 (1,001)
生活ごみ量	231,519 (614)	236,431 (619)	250,966 (653)	246,831 (637)	245,320 (629)
家庭ごみ	184,812 (490)	190,162 (498)	199,368 (519)	195,371 (505)	193,059 (495)
缶・びん・ペットボトル等	19,475	19,594	21,497	20,850	21,257
プラスチック製容器包装	12,956	12,043	12,771	12,584	12,562
紙類定期回収	10,753	10,781	13,426	13,933	14,341
粗大ごみ等	3,523	3,851	3,904	4,093	4,101
事業ごみ量	135,266	131,005	161,751	147,017	145,063
可燃ごみ	102,564	100,649	111,822	112,800	111,095
不燃ごみ	3,580	2,640	4,036	3,013	2,449
資源ごみ	4,920	4,950	3,908	4,205	4,737
粗大ごみ	24,202	22,766	41,985	26,999	26,782
リサイクル量…C	144,031	130,085	139,876	143,582	146,023
本市リサイクル量 (A の内数)	45,013	43,886	48,111	47,866	48,175
民間リサイクル量 (A の外数) … B	99,018	86,199	91,765	95,716	97,848
リサイクル率(%) $C \div (A+B)$	30.9	28.7	27.7	29.3	29.9

📎 平成 25 年度のごみ総量は約 39.0 万トンで，前年度比約 0.4 万トン減少。
また，リサイクル率は 29.9%で，前年度比 0.6 ポイント上昇。

📎 東日本大震災後，人口が急増し，平成 25 年度は前年度比で約 0.8 万人増加。

② ごみ量・リサイクル率等



<考察等>

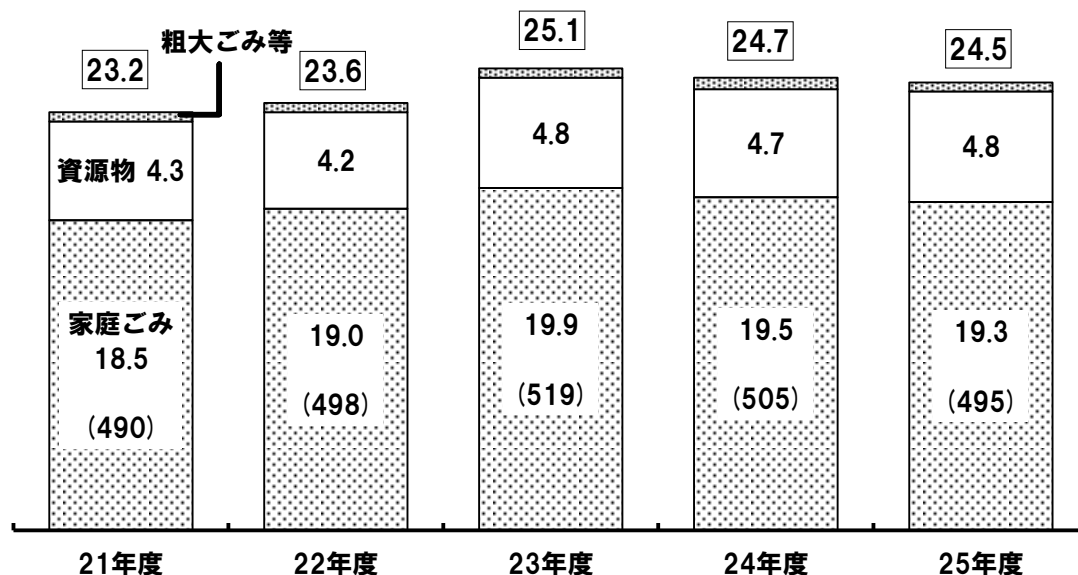
- ☞ 震災の影響等により、23年度以降、震災前の水準に比べてごみ量は増加し、リサイクル率も低下。
- ☞ 平成25年度は、前年度比で生活ごみ・事業ごみともに約0.2万トン減少、リサイクル率が0.6ポイント上昇。ただし、震災前の水準への回復には至っていない。
- ☞ 人口については、震災前に横ばい傾向であったものが、震災後は増加傾向に変わり、平成25年度は前年度比で約0.8万人増加。

<ごみ処理基本計画目標値>

	27年度	32年度
ごみ総量(万トン)	34.8	33.0
リサイクル率(%)	35	40

③ 生活ごみの内訳

単位：万トン、()内は1人1日当たり(g/人・日)



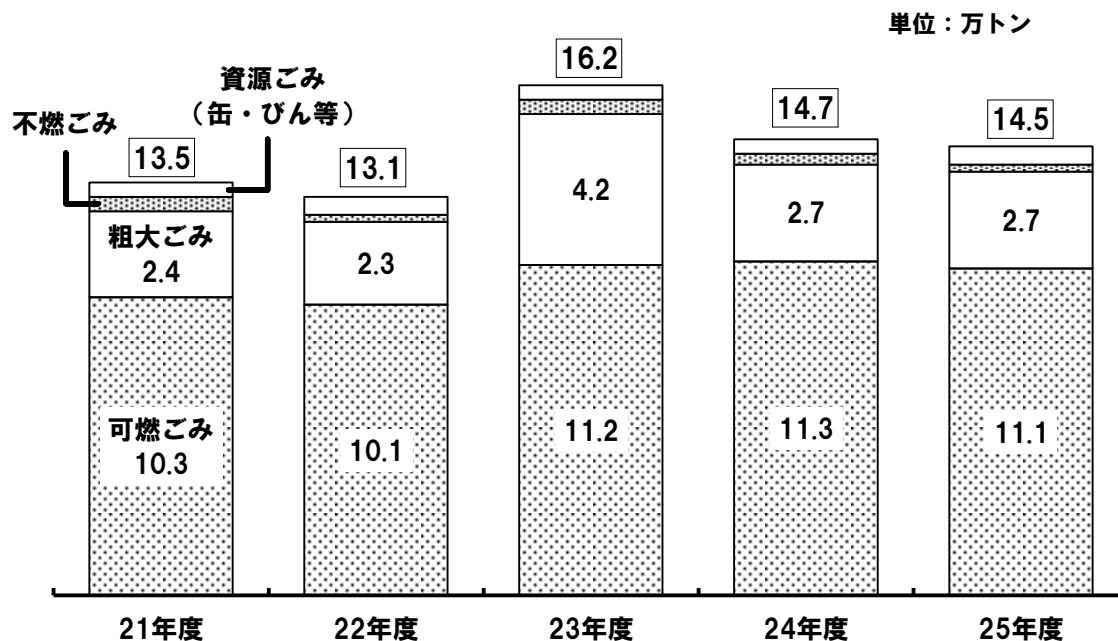
<考察等>

- ④ 震災の影響や人口増加等により、23年度以降、家庭ごみ・資源物ともに増加。
- ④ 平成25年度は前年度比で約0.2万トン減となったが、震災前の水準への回復には至っていない。
- ④ 家庭ごみ量を1人1日当たりで見ると、ごみ有料化実施前（平成19年度586グラム）と比較し、依然として大幅に下回っている。

<ごみ処理基本計画策定当初の想定排出量>

<単位：万トン>	27年度	32年度
生活ごみ	22.9	22.4
うち家庭ごみ	17.8	16.5
家庭ごみ 1人1日当たり (g/人・日)	462	431

④ 事業ごみの内訳



<考察等>

- 近年、事業ごみは減少傾向だったが、震災後の復旧・復興活動の影響等により23年度以降は増加に転じている。

(22年度は3月12日以降、搬入を停止した。)

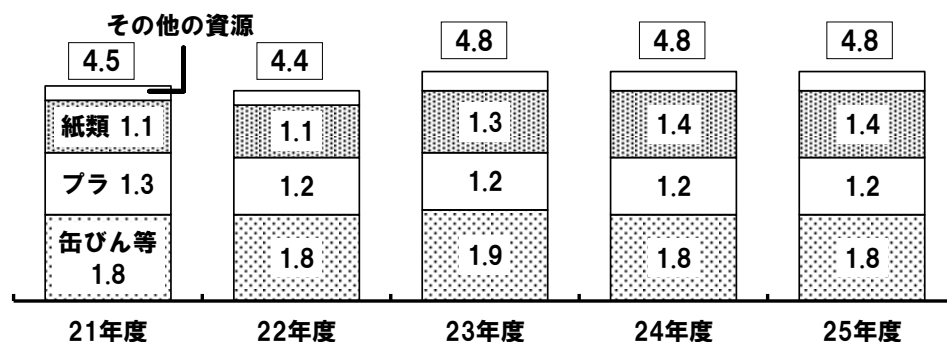
- 平成25年度は前年度比で約0.2万トン減となったが、震災前の水準への回復には至っていない。

<ごみ処理基本計画策定当初の想定排出量>

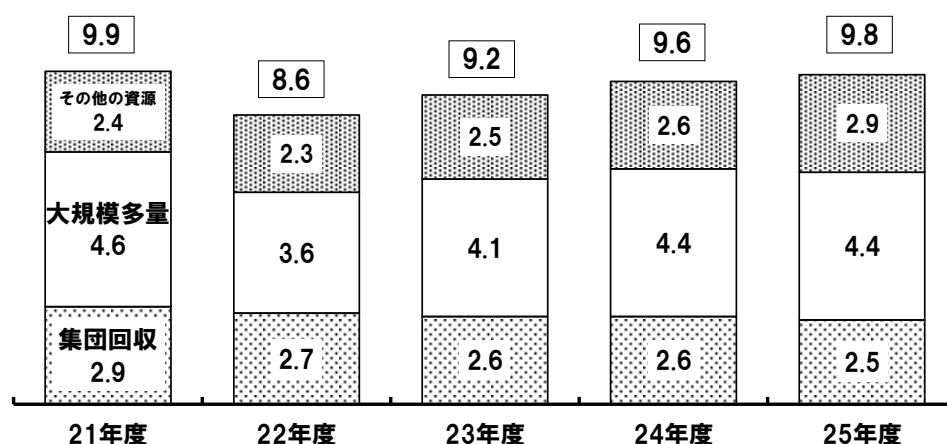
<単位：万トン>	27年度	32年度
事業ごみ	11.9	10.6
うち可燃ごみ	9.0	7.9

⑤ リサイクル量の内訳

本市リサイクル量
(万トン)



民間リサイクル量
(万トン)



<考察等>

④ 民間リサイクル量のうち、集団資源回収量は、近年やや減少傾向となっている。ただし、依然として、一般家庭から排出される紙類の5割以上を集団資源回収により回収している。

④ 民間リサイクル量のうち、大規模多量事業者資源化量は、震災後に減少したが、その後は徐々に増加している。

(震災による報告書提出件数減少等により、22年度は資源化量が減少。)

※ その他の資源 (本市リサイクル量)

粗大ごみ破碎施設における金属回収、
仙台市堆肥化センター処理量 等

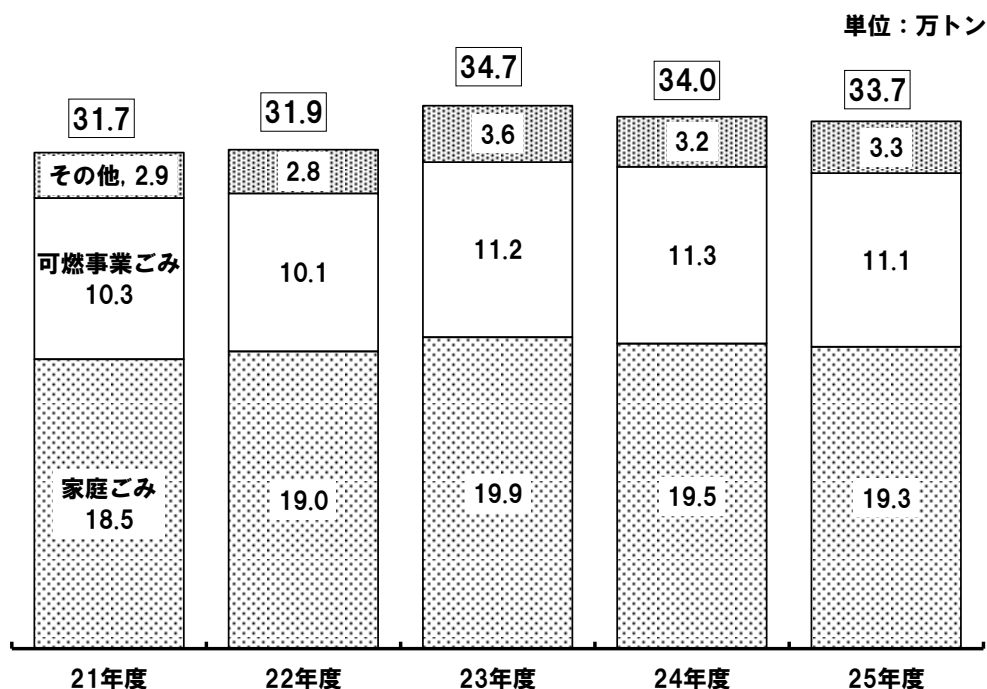
※ 大規模多量 (民間リサイクル量)

大規模建築物所有者、及び多量排出事業者の
自主的な取り組みによる資源化量

※ その他の資源 (民間リサイクル量)

紙類拠点回収(生活系・事業系)、養豚飼料回収、
許可業者による紙類回収、木くずのチップ化 等

⑥ 燃やすごみの量の内訳



<考察等>

- ④ 燃やすごみの量は、近年減少傾向にあったが、震災後は増加している。
- ④ 平成 25 年度は家庭ごみの減少等により昨年度比約 0.3 万トン減となっているが、震災前の水準を回復するには至っていない。
- ④ ごみ処理基本計画においては、燃やすごみの量を目標値に掲げている。
- ④ 今後のごみ量については、復旧・復興活動の本格化や、経済社会活動の活発化の影響などにより予測が難しい状況であり、慎重に見極めていく必要がある。

<ごみ処理基本計画目標値>

<単位：万トン>	27 年度	32 年度
燃やすごみの量	29.3	26.7

※ その他（燃やすごみの量）

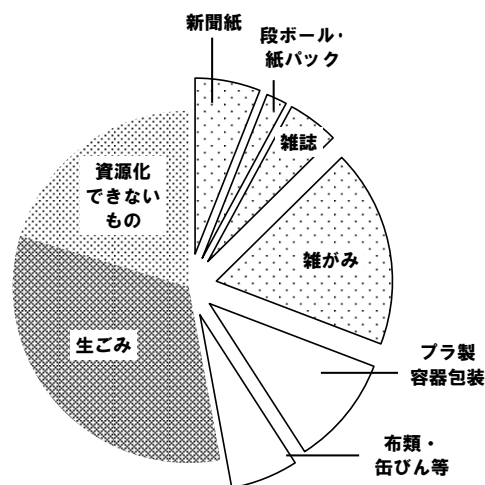
粗大ごみ破碎施設や、資源物の選別・資源化施設から排出される可燃残さ 等

⑦ 家庭ごみに含まれる資源物・生ごみの割合

(単位：%)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
資源化できるもの	38.3	43.8	43.8	44.0	47.1
紙類 計	25.2	30.8	29.8	28.8	30.8
新聞紙	3.1	5.0	4.5	4.2	6.0
段ボール・紙パック	1.9	2.5	1.8	2.4	1.9
雑誌	2.3	5.2	5.4	5.3	4.7
雑がみ	17.9	18.1	18.1	16.9	18.2
プラスチック製容器包装	8.4	8.2	7.9	8.6	10.1
布類・缶びん等	4.7	4.8	6.1	6.6	6.2
生ごみ	41.8	34.6	34.6	35.3	32.6
資源化できないもの	19.9	21.6	21.6	20.7	20.3

<考察等>

- ① 家庭ごみの組成については、資源化できるものが、平成 25 年度に上昇し約 5 割となっている。
- ② このような状況を踏まえ、平成 26 年度は「ごみの分別」を改めて周知するキャンペーンを展開することとした(後述)。



2 今年度のごみ減量・分別キャンペーンについて

① キャンペーン実施概要

○ 背景と趣旨

家庭ごみに混入する資源物の割合が増加（資料1 7ページ「家庭ごみに含まれる資源物・生ごみの割合」参照）していることから、市民・事業者の皆さまに、改めて「分別の大切さ」を理解し実際に行動していただくため、「緊急分別宣言！みなさん、きちんとワケてますか？」をキャッチコピーとした広報・啓発を展開することとした。

○ キャンペーン期間

上記のキャッチコピーを活用し、平成26年5月30日（金）から平成27年3月31日（火）をキャンペーン期間として、様々な事業展開を図っていく。

なお、ごみゼロの日の5月30日（金）から環境月間である6月30日（月）までを、「ワケる強化期間」として、広報・啓発活動を集中的に展開した。（後述）

○ キャンペーン目標

- ・ 平成26年度の家ごみに混入する資源物の割合を、震災前の水準である 38%以下にする。
- ・ 平成26年度の1人1日当たり家庭ごみ量を、震災前の水準である 490グラム以下にする。

② ワケる強化期間中の主な施策

○ ワケルくんの五つ星☆集積所診断

町内会より申し込みいただいた、ごみ集積所について、出されているごみがきちんと分別されているか、排出ルールが守られているか、ごみ集積所が清潔に保たれているか等を環境局職員が診断する。

診断結果は「診断書」として、改善ポイントなども合わせて記載し、町内会にお知らせするとともに、診断の結果、優秀な成績を上げたごみ集積所を「五つ星集積所」として認定し、オリジナル認定証を贈呈する平成26年7月15日現在、申し込みは34団体、99集積所。うち、26集積所を五つ星集積所として認定。

○ 分別お悩み相談会「資源のワケかた相談」

以下の店舗で、ごみの分別や減量についての疑問・質問にその場で答える相談会「資源のワケかた相談」を実施した。

同時に、来店者・歩行者等へキャンペーンちらし（別紙）等を配布し、キャンペーンの趣旨や期間中の取り組み等について周知を図った。

ワケる強化期間中に計6回開催し、それぞれ職員4～5名が従事した。相談受け付け件数は約170件となったほか、約3,000名の来店者・歩行者の方に呼びかけを行った。

月日	店舗名称等
6月 3日 (火)	みやぎ生協桜ヶ丘店
6月 5日 (木)	みやぎ生協岩切店
6月 9日 (月)	みやぎ生協新寺店
6月 11日 (水)	みやぎ生協西多賀店
6月 13日 (金)	みやぎ生協高森店
6月 30日 (月)	藤崎百貨店

※開催時間は全て15:00～17:00

○ キャンペーンちらしの作成及び配布

キャンペーンちらし(別添)を15,000枚作成し、クリーン仙台推進員、町内会、集団資源回収実施団体、ごみ処理施設見学者等へ配布した。

○ その他の広報

- ・市ホームページに市長メッセージ:107万人市民のみなさまへ「緊急分別宣言!!みなさん、きちんとワケてますか?」掲載
- ・市政だより6月号及び7月号
- ・地区連合町内会協議会(区連協)総会等におけるキャンペーン趣旨説明(5区)
- ・事業者団体会報(仙台商工会議所・みやぎ仙台商工会 計10,400部)
- ・フリーペーパー関連記事掲載(仙台リビング、ままぱれ)
- ・その他各種報道(新聞、テレビ、ラジオ)

3 今後の取り組みについて

① 秋のごみ減量・分別キャンペーンについて

10月から11月の2カ月間を2回目の分別啓発強化期間として位置付け、広報・啓発活動を再度、集中的に実施していく。

なお、先行して9月7日（日）に開催する「エコフェスタ 2014」においても、2回目の強化期間中の取り組み等について広報等を行う。

② 平成26年度一般廃棄物処理実態等調査の実施について

仙台市では、平成23年3月に「仙台市一般廃棄物処理基本計画」を全面改定した。

同基本計画は対象年度を平成23年度から32年度までとしているが、中間年度である平成27年度に計画の中間評価を行うこととしており、中間評価の実施に向けて、今年度「一般廃棄物処理実態等調査」を行い必要なデータの収集及び分析等を実施する。

○ 調査概要（予定）

- ・ 調査期間 平成26年9月～平成27年3月
- ・ 調査項目 生活ごみ・事業ごみ組成分析調査、市民・事業者意識調査、将来ごみ量推計 等

○ スケジュール

平成26年	9月	調査開始
	10月	組成分析調査実施
	12月	アンケート調査実施
平成27年	3月	まとめ

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般廃棄物 処理実態等 調査			調査開始 ▽	組成調査 ▽		アンケート 調査 ▽			まとめ →
廃棄物対策 審議会		● 26年度 第1回 (7/30)		● 委員改選		● 26年度 第2回 (予定)			